

## 2.生態系について

### 2-3 典型性

#### 2-3-1 陸域

##### 概要

平取ダム周辺の環境類型を区分すると、

- ・「人工林」
- ・「耕作地」
- ・「広葉樹林（乾性）」
- ・「河畔林」
- ・「針広混交林」

に区分されると考えられます。これらの環境に生息、生育する生物群を併せて、陸域における典型性とします。

なお、とりまとめは環境区分ごとに以下の内容を整理します。

- ・植生断面図
- ・生息、生育環境の概要
- ・生物群集（植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類）の状況
- ・「工事の実施」及び「土地又は工作物の存在及び供用」時における影響検討等

##### これまでの調査

これまで陸域において実施された調査項目、時期等は以下に示す通りです。

典型性（陸域）の現地調査

調査すべき情報		現地調査手法	現地調査期間等
動物	哺乳類相	目視法、捕獲法、フィールドサイン法	H12年1月、6・8・10月 H13年6月 H15年6・7月 H16年2月
	鳥類相	ラインセンサス法、定点観察法、夜間鳴声確認法	H14年5・6・10月 H15年5・6・11月 H16年1・3月
	爬虫類相	目視法、捕獲法、フィールドサイン法	H15年7月
	両生類相	目視法、捕獲法、鳴声による確認	H12年5月 H15年7月
	陸上昆虫類相	一般採集、ライトトラップ法、ベイトトラップ法	H13年6・7・8月 H15年7月
植物	植物相	現地踏査・コドラート・带状区	H12年4・5・7・9月 H15年7・10月

## 2.生態系について

項目別の調査実施状況(陸域：相調査)

項目	年度	調査時期				調査手法	調査範囲
		春期	夏期	秋期	冬期		
哺乳類	H11	-	-	-	1月24～28日	痕跡調査	事業実施区域 + 500m
	H12	6月16～17日	8月18～21日	10月12～15日	-	捕獲調査	主に湛水域
	H13	6月12～15日	-	-	-	捕獲調査	主に湛水域
	H15	-	7月28～30日	-	2月2～6日	捕獲調査 痕跡調査	事業実施区域 + 500m
(コウモリ類)	H15	-	6月9～11日 7月3～4日 7月28～30日	-	-	バットディテクター・捕獲調査	事業実施区域 + 500m
鳥類	H14	5月28～30日	6月13～15日	10月16～18日	-	ラインセンサス・定点観察	猛禽類営巣地周辺
	H15	5月20～22日	6月18～19日	-	1月27～29日	ラインセンサス・定点観察	事業実施区域 + 500m
両生類	H12	5月8～12日	-	-	-	現地踏査	事業実施区域 + 500m
	H15	-	7月3～4日	-	-	現地踏査	主に湛水域外
爬虫類	H15	-	7月7～9日	-	-	現地踏査	事業実施区域 + 500m
昆虫類	H13	6月18～21日	7月24～27日 8月20～24日	-	-	一般採集・ベイト トラップ・ライト トラップ	主に湛水域内
	H15	-	7月7～10日 7月28～30日	-	-	一般採集・ベイト トラップ・ライト トラップ	主に湛水域外
植物	H12	4月24～26日 5月22～25日	7月3～6日	9月6～7日	-	現地踏査	事業実施区域 + 500m
	H15	-	7月3～4日 7月7～11日 7月22～26日	(台風後の状況把握を実施)	-	現地踏査 帯状区・コードラート	事業実施区域 + 500m

## 2.生態系について

### 補足すべき事項の整理

陸域生態系「典型性」を考察する際において、これまで実施された調査に追加して補足すべき項目を整理すると、以下の通りとなります。なお、H16年度に既に実施を確定している項目・内容も含まれます。

#### 既往調査に補足すべき追加調査項目

項 目		内 容
哺乳類	相調査 (捕獲調査)	H15の調査が夏のみ実施されているが、その後台風による出水があったため、改めて(台風後の状況把握も含めて)春・夏・秋の調査を実施する。なお、調査地点、調査地点数に関しては、各環境区分が幅広く網羅されているか確認する。
	コウモリ類	
	ヒグマ	これまでは、聞き取り調査及び他項目の調査時に補足的に記録を残している。これらの結果を踏まえ、春・夏・秋の3期に痕跡調査(足跡、糞、ザゼンソウ等の食痕)を実施する。
鳥類	相調査	上記の環境区分に照らし合わせると「針広混交林」及び「人工林」における調査地を追加し、これらを補足する調査を実施する。
両生類	相調査	H15年度に実施した相調査を継続する。H16年度は、春・夏の2期を実施する。
爬虫類	相調査	H15の調査が夏のみ実施されているが、その後台風による出水があったため、改めて(台風後の状況把握も含めて)春・夏・秋の調査を実施する。なお、調査地点に関しては、各環境区分が幅広く網羅されているか確認する。
昆虫類	相調査	H15の調査が夏のみ実施されているが、その後台風による出水があったため、改めて(台風後の状況把握も含めて)調査を実施する。なお、調査地点に関しては、各環境区分が幅広く網羅されているか確認する。
植物	相調査	H15の調査が夏のみ実施されているが、その後台風による出水があったため、改めて(台風後の状況把握も含めて)春・夏・秋の調査を実施する。
	ライン調査	前記した各環境区分に1地点(ライン)が配置されるよう設定し、植生断面の概要を把握する。
	植生図	H15年度作成版について、台風による改変部分を反映させて作成する。
	広域環境 ベースマップ	クマタカ行動圏の解析をする際に、事業実施区域+5km 圏に範囲を拡大して修正する。

## 2-3-2 河川域

## 概要

河川域における動植物の生息・生育環境は河川形態、河床勾配、河床材料、瀬と淵の分布状況、河川植生、河岸の地形等と密接な関係があり、これらにより河川の動植物の生息、生育環境としての機能が異なっているものと考えられます。踏査や地形図をもとに、河川形態、河床勾配等により額平川、宿主別川を類型区分すると、

- ・「**溪流的な川**」
- ・「**耕作地を流れる川**」
- ・「**平地・水田を流れる川**」

の3つに区分できると考えられます。これらの環境に生息、生育する生物群を併せて、河川域における典型性とします。

## これまでの調査

典型性（河川域）における調査項目、内容等については以下に示す通りです。

## 典型性（河川域）の現地調査の手法等

調査すべき情報		現地調査手法	調査地域・調査地点	現地調査期間等
動 物	鳥類相	ラインセンサス法、定点観察法	湛水域から沙流川合流部	平成 16 年度実施
	魚類相	捕獲調査	湛水域から沙流川合流部	平成 13 年 6・9 月 平成 15 年 7・9 月 平成 16 年度実施
	底生動物相	定性調査、定量調査	湛水域から沙流川合流部	平成 13 年 6・9 月 平成 15 年 7・9 月 平成 16 年度実施
植 物	植物相	水生植物踏査	湛水域から沙流川合流部	平成 15 年 7 月 平成 16 年度実施
	横断植生	ライン調査	類型区分の代表断面	平成 16 年度実施
河川環境ベースマップ		現地踏査(河川形態・瀬・淵・ワンドの分布・河床材料・横断構造物等)	湛水域から沙流川合流部	平成 16 年度実施

## 2.生態系について

項目別の調査実施状況(河川域：相調査)

項目	年度	調査時期				調査手法	調査範囲
		春期	夏期	秋期	冬期		
魚類	H13	6月20～22日	-	9月30～10月2日	-	捕獲調査	湛水域
	H15		7月24～25日	9月21～22日	-	捕獲調査	湛水域～沙流川合流部
底生動物	H13	6月20～22日	-	9月30～10月2日	-	定性調査 定量調査	湛水域
	H15		7月28～29日	9月21～22日	-	定性調査 定量調査	湛水域～沙流川合流部
植物	H15	-	7月22～26日	-	-	現地踏査	湛水域から沙流川合流部

### 補足すべき事項の整理

河川域生態系「典型性」を考察する際において、これまで実施された調査に追加して補足すべき項目を整理すると、以下の通りとなります。なお、H16年度に既に実施を確定している項目・内容も含まれます。

既往調査に補足すべき追加調査項目

項目		内容
鳥類	相調査 (ラインセンサス・定点)	湛水域から沙流川合流部における水域での鳥類調査は、これまで実施されていないことから、H16年度に調査を行う必要がある。
魚類	相調査 (捕獲調査)	H15の調査が夏・秋に実施されているが、その後台風による出水があったため、改めて(台風後の状況把握も含めて)春・夏・秋の調査を実施する。 なお、調査地点に関しては、各河川類型区分が網羅されているか確認する。
底生動物	相調査 (定性調査・定量調査)	
植物	水生植物調査	H15の調査が夏のみ実施されているが、その後台風による出水があったため、改めて(台風後の状況把握も含めて)夏・秋の調査を実施する。
	横断植生 (ライン調査)	前記した各環境区分に1地点(ライン)が配置されるよう設定し、植生断面の概要を把握する。
河川環境ベースマップ		現地踏査により、河川形態・瀬・淵・ワンドの分布・河床材料・横断構造物等の状況を把握し、図面上に整理する。また、横断植生や他の生物調査の結果を用いて、生物群集の模式図を整理する。